

## 幼児を対象とした絵巻の体験における有効性と問題点の検討

# Examination of effectiveness and problems by the experiences of picture scroll for infants

木下 藍, 中尾 泰斗\*

KINOSHITA Ai NAKAO Taito

キーワード：絵巻、日本絵画、児童文化財

Keywords: picture scrolls, Japanese paintings, children's cultural properties

本研究は、日本絵画の古典的な形態の一つである絵巻の特性に注目し、その表現と形態の保育領域での活用を検討するものである。

今日、児童文化財はその主たるものに絵本が認識される。その発生は洋の東西において起点が異なるが、日本における絵本の原型は絵巻とされる。その認識が広く浸透しながらも、保育領域での積極的な使用は稀である。

しかし、絵巻は絵本や紙芝居等の既知の児童文化財とはその用途が同じながらも、それ独自の形態と表現を保持している。このような点から絵巻の児童文化財としての位置づけを検証することは児童文化財領域の一助を担う可能性が見出せる。

そこで本稿は、保育領域における絵巻の有効性と問題点を探るために《鳥獣戯画》の原寸大複製を用い、それを体験した幼児の反応を調査することで検討した。

### 1. はじめに

児童文化財は腰山（2005<sup>1</sup>）が指摘するように、保育と直接的な関係を持つものとして、その生活の場に密着したものである。それは科学技術の発展とともに光学機器を利用した実践<sup>2</sup>も試みられ、選択肢の裾野が広がっている。

そのような児童文化財の主たるものは絵本であり、それらに関連する学術研究や実践的研究は枚挙にいとまがない。その一方で、児童文化財の先学の指摘を振り返ると高橋（1961<sup>3</sup>）の論考をはじめとして、日本の文化的側面を有した教材の必要性が度々取りざたされている。

そこで我が国の文化財の形態を平面作品に限定して概観すると、和本、絵巻、掛け軸、屏風等がある。しかし、それらは今日までの生活環境の変化によって保育領域をはじめとして一般に触れる機会が激減している。ところが、教育の視点からは幼児のその後に接続する小学校課程以降、国語、社会、図画工作科など多教科にわたって自国の文化の認識と継承が重視される傾向にあることが学習指導要領を通観すると理解できる。それに関する先行研究では小学校の社会科において、五十嵐（2000<sup>4</sup>）による実践が少数見られる。

---

\*福岡女学院大学人間関係学部子ども発達学科講師

ここまで以上に述べた点や昨今の幼保小連携の機運の高まりを踏まえると、保育領域において日本の文化財を活用することは、幼児の経験を広げながら小学校教育へと向かうことが期待される。

## 2. 児童文化財としての絵巻の独自性

保育現場にて頻繁に用いられる絵本や紙芝居は、読み聞かせにみられるように保育者と幼児が関わり合いを持ちながら言葉を楽しむことを目的に利用される。すなわち、保育内容における言葉の領域に係るものである。幼稚園教育要領や保育所保育指針では、第2章の言葉の項目におけるねらい(3)にて、以下のように示される。

「日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、先生や友達と心を通わせる。<sup>5)</sup>」

次に内容(9)は以下のとおりである。

「絵本や物語などに親しみ、興味を持って聞き、想像する楽しさを味わう。<sup>6)</sup>」

このことから、絵本や紙芝居が絵と文字と人間の発話を通してそれらを達成するための用具であることが具体的に理解される。つまり、視聴覚教材としての児童文化財と言語活動の関係は幼児の成長にとって密接なものであるとわかる。

そしてその理解を、八幡(2007)の示すように「体験と想像の両面から言葉を知り考えることを重要<sup>7)</sup>」とした場合、その解釈は、ねらいや内容の目的を果たすことを前提として、触れる媒体の選択肢に多様な可能性を残しているという見方ができる。

その点と我が国固有の文化財の形態の体験という点を踏まえると、特に絵巻に注目できる。絵巻は《鳥獣戯画》(Figure 1)において日本の絵本やアニメーションの原型とされることは今日周知である。また詞書と絵画空間が明瞭に分かれた《地獄草紙》(Figure 2)や、画中詞が取り入れられた作例《福富草紙》(Figure 3)は、その展覧法に絵本と類似した傾向が見られる。そして先に示したように幼稚園教育要領や保育所保育指針は、物語に親しむための形態を本や紙芝居に限定していない。そのため、絵巻独自の特徴を生かしてその充実を図ることは幼児期の体験の拡充に繋がることが期待される。

絵巻の使用法は、今日では美術館での展示の際に横長に広げた形式で設置されることが多い。しかし、本来は横長の画面を適宜広げ巻き取ることを繰り返して右側から内容を読んでいくものであり、それは絵本や紙芝居とは異なる用法である。絵巻には《鳶図》(Figure 4)のように風景をパノラマ的に描くための横長の画面として用いた作例もあるため、その意図が絵本的な使用に沿わない場合が存在することに留意が必要であろうが、少なくとも「物語を描いた絵巻」の目的は、今日的な児童文化財と類似している。

更に、今日までに確認できる絵巻の題材は源氏物語等の古典文学が主流な一方で、竹取物語や西遊記等の子どもへの読み聞かせに用いられる内容のものも少数ながら確認できる。

また絵巻は、全体が途切れることなく一連の流れをもった物として存在している点から紙芝居やアニメーションのシーンや頁とは異なる独自性を保持している。そして表現の観点か

らは、異時同図や吹き抜け屋台等の特徴的な表現がある。このような点を鑑みると、絵巻は絵本や紙芝居と同列に位置しながらも、それ固有の特徴を持った児童文化財という位置づけが見出せる。

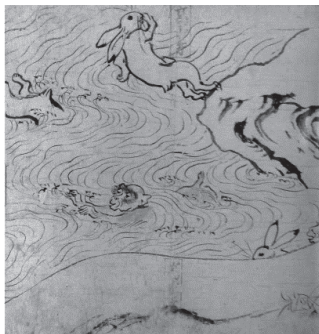


Figure 1 《鳥獸戯画（甲巻・部分）》高山寺蔵、12世紀から13世紀頃、30.4 × 1148cm



Figure 2 《地獄草紙（益田家本乙巻・部分）》文化庁他蔵、12世紀、26 × 568.2cm



Figure 3 《福富草紙（春浦院本上巻・部分）》春浦院蔵、15世紀、31.2 × 833cm

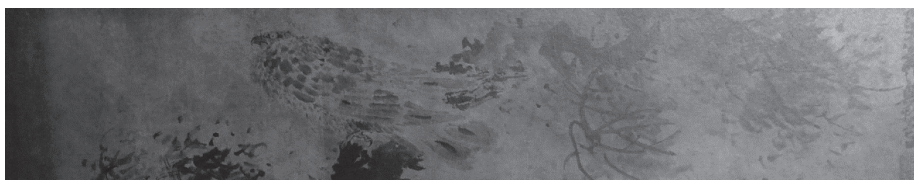


Figure 4 与謝蕪村《鷹図》18世紀、27.8 × 125.8cm

### 3. 研究の目的

ここまで示したように絵巻は、保育領域における有効な活用の可能性を示唆しながらも、その実践は近年に至る中で看過されてきた感がある。そのため保育に係る学術研究上では、絵巻を取り上げた先行研究が極端に少ない。また現場においても積極的に用いられた事例の報告は僅少な感がある。

このような点からは、保育領域における日本文化の普及率の低さがその問題点として浮き彫りとなる。それを絵巻に限定して言及するならば、題材の解題や形態の使用法等の理解、そして日本絵画の表現や素材を体験する機会といった、保育者と日本美術を結ぶ総合的な経験の場の不足があげられる。また環境整備の観点からは、子ども向けの実用的な題材の個体数や流通量の少なさがその一因としてある。このように、保育領域で絵巻を用いることは、現状では多くの課題を残している。

このような点から本研究は、絵巻の保育領域における有効性を検証するものである。その中で本稿は、幼稚園にて幼児を対象とした絵巻の体験を行う。そして、形態と表現の特徴が今日の未就学児にどのように受容されるのかについて明らかにする。その際の子どもの反応や感想をまとめることで、保育現場からの視点を踏まえた絵巻の効果や問題点の所在を明瞭にする。

本実践では講談社が1968年に刊行した《鳥獣戯画》の甲巻と乙巻の原寸大複製を使用した。この作例は、動物を擬人化した様々な場面を描いた絵巻である。本題材は、物語としての主題の一貫性に関しては明瞭ではない。しかし、源氏物語絵巻等のやまと絵を基調とした文学的な作品に比べると、図像や解題の観点から被験者との親和性が期待される。

その描写の内容は、甲巻が物語的であるのに対して乙巻は動物絵手本の類と位置づけられる<sup>8</sup>。そして、場面転換等の表現手法等から甲巻に絵巻物の特徴がより顕在化している。本実践では甲巻と乙巻の両巻を用いることで、その受容の差やそこで見られる幼児の活動の傾向を明らかにする。

### 4. 研究の方法と手続き

#### 4-1. 実践日時と実践場所

2017年7月13日 8:00～10:00

常葉大学短期大学部附属とこは幼稚園

#### 4-2. 方法

- ①絵巻を子どもに自由に体験させ、どのような印象を持つか参与観察を行う。
- ②絵巻の全長を体感させた後、興味をもった子どもに絵巻の正規の用い方に準じた鑑賞方法

で提供する。

③子どもが絵巻を見ている際の会話・つぶやきを録音する。

#### 4-3. 倫理的配慮

録音を行うにあたり、園長への許可を取った上で、事前に保護者にお知らせを配布し、録音を行うことを周知した。録音内容を書き起こしする際には個人が特定されないよう配慮した。

### 5. 結果と考察

実践では、Table 1 から Table 5 に示すように、子どもの形態への興味、内容への興味、それらからもたらされる会話の展開と子どもの人間関係という点に分けた発話が認められた。それらの点についての結果と考察、問題点等をまとめる。

#### 5-1. 子どもの形態への興味

Table 1 にまとめた子どもの形態への興味に関する保育者とのやり取りからは、子どもが絵巻の物質的な長さに積極的に興味を持っているとわかる。この状況は子どもと絵巻との邂逅が円滑に履行されていることが示されている。そしてそれは、5-2. に示す Table 2 と Table 3 のまとめとの関連を鑑みた際に、形態への興味を基に絵画の内容に興味に移行していることから絵巻の持つ形態の特徴を活かすことは導入部分において有効な結果を見せたと捉えられる。

一方で、Table 5 に示したように、その長さの興味が絵画の内容に移行せず、走り回る遊びになってしまう場面もみられた。絵巻とその場に在することの目的を鑑みた場合には、その行動が絵巻の長さへの関心から生じたことを認めつつも、保育者から内容への興味を引くような言葉かけがより積極的に必要であったと考える。

#### 5-2. 内容への興味

鳥獣戯画の内容に関する発話をまとめた Table 2 と Table 3 を見ると、甲巻と乙巻では幼児の反応の共通点と相違点が確認された。

まず、両巻ともに図像が示す動物の種類に対しての問いかけが、その発信順を問わず子どもと筆者・保育者に見られた。そして、甲巻ではそれにとどまらず、描かれた内容のその後の展開や動物の動きの内容に関する自発的な幼児の発話が多くみられた。その中で、それぞれが興味を持った部分について積極的に興味が示された。つまり、甲巻において活かされた絵巻の持つ特徴である途切れない画面を活かした体験は、幼児にとって絵画の内容の想像をより展開させる契機になったと捉えられる。

#### 5-3. 会話の展開

Table 4 からは、幼児の会話が内容や形態への興味から発展して、自身が抱いた疑問や実生活にまつわる内容へと展開したことがわかる。形態からは、絵巻が古いものであるという印象や、そこから連想した忍者に関する会話への展開が見られた。そして絵画の内容からは、雨から発展した水への興味や自身の所持している傘への展開が見られた他、米や小鳥などの



内容の一部を自身の想像によって自己の生活や感情と結びつけた発話が認められた。これらのことから、幼児がそれまでの経験を基に絵巻の古典性を感じ取っていながらも、その内容からは現代の生活との共通項を見出して共感しているものといえよう。つまり、絵巻の形態と内容から発展した会話によって実生活に根差す文化的な側面を感じ取っていると理解できる。

#### 5-4. 子どもの人間関係に関する子どもの態度

実践時の幼児は、Table 5 にみられるように用具の使用に関する事項から、共用のものを大切にすることへの配慮等人間関係に係る事例が示された。特に、絵巻を広げて移動させた場合には、筆者と共に、破損しないように取り扱う意識が見られた。一方で、先にも示したように絵巻の周りを走る幼児が多くみられ、その際の保育者からの環境に即した態度への注意を受けることも多くあった。それは、普段触れることの少ない絵巻を体験したことによる感情の高まりと、絵巻の配された場に走るために十分な空間的なゆとりがあったことに起因していよう。

#### 5-5. 結果と考察のまとめ

以上のように本実践では、絵巻の形態に子どもの興味を喚起する効果が見られた。そして本実践で使用した鳥獣戯画の内容は、甲巻、乙巻それぞれに傾向の違いがありながらも子どもと他者の積極的な発話を促した。また、絵巻の展観を通して他者と共有物を大切にしようとする意識も確認された。一方で、幼児が形態から得た感情の高まりは、絵画の内容には向かわず、部屋を走るという身体的な表現として発露される場面もあった。

このような結果について、本稿でその位置づけを同列視している絵本に関する研究を振り返ると、千古(2016<sup>9</sup>)は言葉を介した人間関係の構築力を育むための児童文化財の重要性について絵本の形式と児童文学の関連性を通して検証している。この点と本実践の結果を踏まえると、絵巻の使用における他者への配慮等があったことや、幼児に識字に関する事項は見られなかったものの動物の種類や状況を際際すことを中心とした発話を通した言語活動が活発であったことから、絵巻からも絵本と同傾向の児童文化財的価値が見出せたと言えよう。それは冒頭で示した幼稚園教育要領と保育所保育指針における、内容に興味を持って聞き、想像する楽しさを味わうとともに、それを保育者や友人と共有することが達成できたと捉えられる。

#### おわりに

幼児が多様な経験を経ることが人格形成や発達のために重要であることは改めて示すまでもない。本実践では、日常での使用が少ない絵巻を保育現場で用いることがその多様化の一助を担うものとなることが示唆された。

絵巻の形態は、幼児の興味を獲得できるものであるとともに、個人個人の想像や発想を促す効果が認められた。その用法は絵本や紙芝居での読み聞かせが主に「大人が子どもに読む」といった大人が提供する構図であるのに対し、「大人と子どもが共に読み合い、発見していく」という両者が内容を共有するものがあった。筆者はこのような点を、絵巻の児童文化財としての有用性が絵本とは異なった独自性を持ったものとして示されたと考えられる。

また冒頭に示したように、小学校教育との連携が重要視される傾向がある中で本実践は、小学校学習指導要領における「伝統的な言語文化に関する事項」につながる体験を創出する機会となったといえよう。

一方で当初の見込みであった読み聞かせに関係する成果が薄かったという点は、鳥獣戯画に台詞が無く、絵画の内容の解釈が個人にゆだねられる側面が大きいといった特徴に起因していよう。今後はその課題を踏まえて物語として確立された題材や、台詞が入った作例での実践を行い、その有効性と現場での汎用性を担保していきたい。

## 文 献

- 1 腰山豊「短大保育科における実践的指導力の形成と授業改善(9) - 児童文化財と保育のかかわり -」『聖園学園短期大学研究紀要』第35号、聖園学園短期大学、2005年、1頁
- 2 「デジタル紙芝居」：保育現場へのマルチメディア導入『情報処理学会研究報告情報システムと社会環境』84号、情報処理学会、2001年
- 3 高橋さやか「日本の文化財と幼児教育」『幼児の教育』60号、日本幼稚園協会、1961年、20頁
- 4 五十嵐誓「絵巻物の物語性に着目した小学校歴史学習の展開 - 『蒙古襲来絵詞』を用いた実践をもとに -」『社会科教育研究』83号、日本社会科教育学会、2000年
- 5 『幼稚園教育要領〈平成29年告示〉』フレーベル館、2017年、19頁
- 6 同上、20頁
- 7 八幡眞由美「児童文化財の保育における効用に関する一考察 - 領域言葉の側面から紙芝居を中心に -」『上田女子短期大学紀要』30号、上田女子短期大学、2007年、41頁
- 8 辻惟夫「各巻の描写内容と画風」『日本の美術』300号、至文堂、1991年、36頁、50頁
- 9 千古利恵子「『児童文学』考 - 保育者に求められる「児童文化財」活用の視点から -」『京都文教短期大学紀要』55号、京都文教短期大学、2016年、125頁

## 図版典拠

- Figure 1 『日本の美術』300号、至文堂、1991年、1頁  
 Figure 2 『日本の絵巻7 餓鬼草紙 地獄草紙 病草紙 九相詩絵巻』中央公論社、1987年、75頁  
 Figure 3 『続日本の絵巻27 能恵法師絵詞 福富草紙 百鬼夜行絵巻』中央公論社、1993年、25頁  
 Figure 4 『生誕三百年 同い年の天才絵師 若沖と蕪村』サントリー美術館、2015年、236頁

表 1. 子どもの形態への興味に関する保育者とのやり取り

Table 1. Communication between children and a child care worker (Interest in form)

	子どもの形態への興味の発話	筆者・保育者の発話
	あそこまで？	これねながーい絵が描いてあるの。何描いてあるか見てみてね。  そう、あそこまでずーっとずーっと絵が描いてある
	どうやってつなげる？	これながーいの。まだ絵が続いてる  これはね、短い紙をのりでくっつけてるの。で、ながーい紙にしてるの

<p>幼児1：なんでここにいのー？</p> <p>先に体験した幼児：くるくるってやるんだよ。</p> <p>幼児1：何これ何これ。</p> <p>幼児1：すごい長い。</p> <p>幼児1：どこまでいくの？</p>	<p>今日はね、このながーい絵を持ってきたの。ながーいよ。見てみる？</p> <p>そう。まだあるよ</p> <p>何描いてる？</p> <p>すごいながいね。階段まで行っちゃうかな？</p> <p>どこまでいくんだろうね。</p>
<p>なんでこんな長いんだろう？</p>	
<p>これはこうやってして見てー。</p> <p>うん！すごーい。これは何？</p> <p>これは誰の？</p> <p>このぜーんぶなの？</p>	<p>うん、こうやって広げてみる？</p> <p>それはこの絵巻物の説明がしてある本。</p> <p>これもね、いっしょについてきた。</p> <p>うん。</p>
<p>幼児1：ねえなんで長い？</p> <p>幼児1：ながーい。</p> <p>幼児1：ながーい。</p> <p>幼児2：ながーい。</p> <p>幼児1：えーそうなんだ。</p>	<p>なんで長いんだろう。みんなさ、絵本読むでしょ。昔は、こういう絵本みたいなのがあったみたい。</p> <p>(絵巻を最後までのぼしきる)</p> <p>あつたー、ゴール。ここまであつた。</p> <p>ここで最後。</p>

表 2. 甲巻における絵巻の内容への興味に関する保育者とのやり取り

Table 2. Communication between children and a child worker (Interest in the contents of the picture scroll “Ko-no-maki”)

子どもの発話	筆者・保育者の発話
<p>キツネとウサギと、キツネと、ウサギ。</p> <p>カエルとウサギ</p> <p>なんか。。。忘れた</p> <p>サルだ</p> <p>ウマとさる これは？サル？</p> <p>何か入ってる。温泉みたい。ふふ</p>	<p>いろんな動物がいるんだけどさ、何の動物かわかる？</p> <p>本当だ。カエルもいるね（指さしながら）何してんだろうね？</p> <p>カエルさん何か持ってるね</p> <p>忘れた？</p> <p>サル何してる？</p> <p>温泉入ってるのかな？そしたらこれお湯かけてるみたいだね。どうぞっておサルさんに。</p>



幼児を対象とした絵巻の体験における有効性と問題点の検討

<p>ここにもいるネズミ？イノシシみたい。 もしかして……イノシシ</p>	<p>イノシシみたいだね。 おサルさんとウサギさんいるねカエルさんもいる。</p>
<p>幼児1：わかんないこっちまでいるの？ (別の女兒が来る) 幼児2：カエルじゃない？ 幼児1：立ってる。 幼児1：これトナカイ？ 幼児2：サイかな？</p>	<p>これ何描いてるかな？ そう、これなんだ。 カエル何してるんだらうね。 立ってるね。ウサギもいるね。 トナカイかな？ サイかな？角があるね。</p>
<p>カエル。 ウサギをさ、おいかけてる。  ちがう。  シカ。 シカ？シカだねえ。 ウサギ？ カンガルー？わかんない。</p>	<p>筆者：これなんだ？ 筆者：カエル、何してるんだらうねえ。 筆者：ウサギを追いかけてるんだ。ウサギも何か追いかけてるね。 筆者：これ、これだれ？なんだらうね。 保育者：これAちゃんじゃない？ 筆者、保育者：（笑う） 筆者：こんな、こんな毛むくじゃらじゃないね。 保育者：なんだらう。 筆者：なんだらうね。角生えてるね。 筆者：シカかなー。 筆者：シカ……誰が連れてってる？ 筆者：ウサギさんが連れてってる。</p>
<p>いた。 ここに ネズミ。 なんでこんな長いんだらう。 これは？ カエルね、カエルさんいる。おサルさんもいる。 カエルさんいた。カエルさん。</p>	<p>ネコいたー？ネコどこにいた？ 本当だ。ネコさん何してんだらう。 ネズミいる？ こっちは？何してんだらう……</p>

<p>そう。</p> <p>えと、ウサギさん。</p>	<p>これね、いろんな動物が描いてある。</p> <p>どんな動物いる？</p> <p>ウサギさんいるね。</p>
<p>幼児1：これは 何は何？</p> <p>幼児1：わかんない。</p> <p>幼児1：あ、これは、顔。</p> <p>幼児1：えっとね カブトムシ。</p> <p>幼児1：カブトムシって言うてるー。</p> <p>幼児1：これは誰？</p> <p>幼児2：あ、これ？ライオンだよライオン。</p> <p>幼児2：ライオン</p> <p>幼児2：これは何？</p> <p>幼児2：うん。</p> <p>幼児2：そう、カエル。</p> <p>幼児2：カエル……</p> <p>幼児2：カエル……ん？この名前って誰？</p> <p>幼児2：へえー</p> <p>幼児2：これはウサギ？</p> <p>幼児2：あ、こんなところにもカエルがいるー。</p> <p>幼児2：何してるかな？</p> <p>幼児2：ねえ、ウサギさんも何してるんだらう。</p> <p>幼児2：この子は何してるのー？</p> <p>幼児3：何してるか全然わかんないー。</p>	<p>これなんだらう？何だと思う？</p> <p>何してるどころだと思う？</p> <p>これなんだらう。</p> <p>カブトムシ？</p> <p>カブトムシって言うてる？</p> <p>これ誰だらう。誰だとおもう？</p> <p>ライオン？ライオンかな。</p> <p>あ、これなんだと思う？</p> <p>これね、さっきちょっとさ、言ってたけどこれカエルがさ、</p> <p>カエルなんだ。</p> <p>カエル何してるんだらう。</p> <p>何カエルだらうね。</p> <p>これね、高山寺ってお寺の名前、このハンコ。</p> <p>いっぱいあるね</p> <p>うんウサギさん。ウサギ何してるんだらうね。</p> <p>ほんとだ、カエル。</p> <p>何してるんだらうね？</p> <p>ウサギさんも何してるんだらうね。</p> <p>ねえ。</p>

幼児を対象とした絵巻の体験における有効性と問題点の検討

<p>幼児1：うわ何これー。</p> <p>幼児1：これ足が見える。</p> <p>幼児1：これウサギだと思うよ。</p> <p>幼児1：しっぽがある</p> <p>幼児1：キツネ？</p> <p>幼児2：ウサギじゃないよ</p> <p>幼児1：これウサギだよー。</p> <p>幼児2：この足じゃないんだよウサギは</p> <p>幼児2：うん。</p> <p>幼児1：ウサギいっぱいじゃん。</p> <p>幼児2：うん、だってこの顔見て。</p> <p>幼児2：ライオン。</p> <p>幼児2：この中に入って。</p> <p>幼児1：どろんこよー。</p> <p>幼児1：どろんこ。</p> <p>幼児2：何してるのかな。</p>	<p>これなんだろう。何してるんだろう？</p> <p>足が見えるね。何してるんだろうみんな。</p> <p>ウサギだと思う？</p> <p>しっぽがあるね。</p> <p>ウサギじゃない？</p> <p>この足じゃない？</p> <p>ウサギ以外の動物もいるよ。</p> <p>この顔……何だろう。</p> <p>ライオン？ライオン何してるのかな。</p> <p>どろんこあそびしてるのかなー。</p> <p>プールに入ってるのかな？</p>
<p>うん</p> <p>なんなのこれ</p> <p>ライオン。</p> <p>あし、あしあしあし！</p> <p>足が見える。</p> <p>これ雨降ってるねえ。</p> <p>これ。</p>	<p>筆者：ウサギ何かのってるね。</p> <p>筆者：これはね、むかしのむかーしの誰が描いたかわからないながーい絵巻物。</p> <p>筆者：こっちは？</p> <p>筆者：足だね足だけでてるね。</p> <p>保育者：足気に入っちゃったねえ。</p> <p>筆者：足が見えるね。</p> <p>保育者：こっちから見てごらん回って。</p> <p>筆者：うんうん。</p> <p>筆者：雨降ってるねえ。</p> <p>筆者：うん、こっちからだと見やすい。</p> <p>保育者：見えた見えた。</p>

<p>幼児1：あしー。</p> <p>幼児1：これライオンの足。</p> <p>幼児2：ちがうー。</p> <p>幼児1：ライオンのあしー。</p> <p>幼児1：うん。</p> <p>幼児1：ライオンの足これ。</p>	<p>筆者：うん足ねえ。</p> <p>保育者：足どうなっちゃってるのこれ。</p> <p>保育者：ライオンー？</p> <p>保育者：Sちゃんちょっとこっちから見てごらん。</p> <p>筆者：ライオンの足？</p> <p>保育者：ライオンさんじゃないみたいに見えるけど。</p>
<p>これお風呂入ってる。</p> <p>うん、お母さんにもびゅーってしてる。</p> <p>こうやってするんだよー。</p> <p>これお母さんだし、ここ全部いるんだよ、ウサギ。</p> <p>足が、いっぱい長い。</p>	<p>保育者：背中、かきかきしてる。</p> <p>筆者：あ、ほんとだー。</p> <p>保育者：きれいきれい。</p> <p>筆者：お風呂入ってるのかーきれいにしてくれてる。</p> <p>保育者：ああ、そうかー。</p> <p>筆者：お母さんにもびゅーってしてる？</p> <p>保育者：お母さんがごしごししてくれて。</p> <p>筆者：あー。</p> <p>保育者：で、ウサギさんが、かけてる？</p> <p>保育者：うーん。</p> <p>筆者：じゃあこれお母さんかな？</p> <p>筆者：ウサギいっぱいいるね。</p> <p>筆者：うん。こっちにもウサギさんいるよー。</p>
<p>かわいい。</p> <p>ウサギさんこれ？</p> <p>ウシ？</p> <p>これがウサギ。</p> <p>これはカエル。</p>	<p>ここいっぱい動物いるんだよ。</p> <p>かわいい？</p> <p>ウサギさんいるねえ。こっちは？</p> <p>なんだろうね。</p> <p>ウサギさん。</p> <p>カエルいるね。</p>
<p>これ。ウサギさんのお父さん。</p>	<p>これなんだろう。</p> <p>これみみんな何やってるんだろう</p>
<p>うん。ウサギさん食べてるびゅーーんってなっちゃうね。</p>	<p>ウサギさんお餅食べるんだ。</p>

<p>昔の？</p> <p>えーそうこれは何？</p>	<p>これ絵巻物っていう昔の絵を持ってきたの。</p> <p>そうすごい昔の絵。</p> <p>ここにさウサギとカエル以外の動物もいる。</p> <p>これ何かな？もしかしたらカエルさんかな？</p>
<p>これ、ウサギさんもいる。</p> <p>どこ？</p> <p>ほんとだねー。</p> <p>こっちも。</p> <p>うん。</p> <p>すわってる。</p>	<p>ウサギさんなんかおどってるみたい。</p> <p>これ、ほら。</p> <p>すごい笑ってる。</p> <p>こっちも踊ってる？にこにこしてる？</p> <p>こっちのウサギさんは？</p>
<p>幼児1：えっと、ライオン。</p> <p>幼児2：サル。</p> <p>幼児2：シカ……とウサギ。立ってる。</p> <p>幼児1：ウサギが。</p>	<p>これなんだろう。Sちゃんこれなんだと思う？</p> <p>ライオン？Rくんは？</p> <p>サル？サルなんかお洋服着てるね。こっちは？</p> <p>立ってるねえ。</p>

表 3. 乙巻における絵巻の内容への興味に関する保育者とのやり取り

Table 3. Communication between children and a child care worker (Interest in the contents of the picture scroll “Otsu-no-maki”)

子どもの発話	筆者・保育者の発話
<p>何これ？</p> <p>またか。</p> <p>ウマ。</p> <p>ウマばかり。</p> <p>(幼児二人がずっと車を走らせている)</p> <p>あ、かり。</p> <p>かり。</p> <p>狩りだよ</p>	<p>これもね、巻物。</p> <p>でもね。違う絵が描いてあるよ こっちは何描いてるかな。</p> <p>ウマいるね。</p> <p>ほんとだ。でもちっちゃいウマがいるみたい。</p> <p>これ何してるどころかな</p> <p>火事？</p> <p>あ、狩り、かりしてるのかな。</p> <p>何捕まえるんだろう。</p>



<p>ウマだウマ。</p> <p>ウマ。</p> <p>ウマだけ。</p> <p>ウシ。</p> <p>ちょっと、</p> <p>ちょっとわからないなあ何か。</p> <p>なんだ。</p> <p>こうやって見るの？</p> <p>うー……カバさん？</p> <p>サイみたいサイ。</p> <p>わあ。</p>	<p>ウマだね。</p> <p>ウマ。</p> <p>あ、ウマじゃないみたい。</p> <p>ウシ？</p> <p>うんウマとウシだね。</p> <p>次なんだろう……あれ。</p> <p>こっち向いてペロだしてる。ペローんて。</p> <p>こうやって巻きながら見るの。こっちきたら？</p> <p>あ、決闘してる。</p> <p>これみんながウシじゃないかなって。</p> <p>角がある？</p>
--	---

表 4. 絵巻を介した会話の展開

Table 4. The development of conversation through the picture scroll

子どもの発話	筆者・保育者の発話
<p>(巻物を見て)</p> <p>本物？本物の忍者いるの？</p> <p>わかんない。でもなんでこれあったの？</p> <p>持ってきた？</p>	<p>おはようー。</p> <p>本物の忍者いた？どこにいた？</p> <p>ほんとだねーなんであるんだろう？</p>
<p>これ何のためにやってるの？(絵巻に対して)</p> <p>描いたのねえちゃんかなあ？</p> <p>おじいちゃんはいない。</p> <p>おばあちゃんだけ。</p> <p>そうなんだ。</p>	<p>何のために描いたのかな？これ誰が描いたかわからないんだけど</p> <p>みんなのおじいちゃんとかおばあちゃんとかいる？</p> <p>おじいちゃんはいない？じゃあ</p> <p>おばあちゃんのそのまたおばあちゃんのおばあちゃんのおばあちゃんのおばあちゃんのおばあちゃんの…ぐらい昔の人が描いた。</p> <p>そうなのだからね、昔だから誰が描いたかわからないんだけど。</p>

幼児を対象とした絵巻の体験における有効性と問題点の検討

<p>これ雨降ってるねえ。</p> <p>これ。</p> <p>Sちゃんもおうちに傘あるんだよお。ミッキーの傘 あの、Sちゃんは、これが好きなんだよー。</p>	<p>筆者：雨降ってるねえ。</p> <p>筆者：うん、こっちからだが見やすい。 保育者：見えた見えた。</p> <p>保育者：水ばしゃばしゃやってる。 筆者：うーん、ほんとだ。みんなもやる？水遊び。</p>
<p>これ何？</p> <p>へーそうーこれは何？</p> <p>これは何？</p> <p>へえーどうやって入れるの？</p> <p>へえーそうー。</p>	<p>それね、紙がのかないように重石してあるの。</p> <p>これもおんなじ、絵巻物。</p> <p>これはね、入れ物のふた。</p> <p>これをね、これをくるくるくるってまいたら、これになるから、ここに、箱があるの。これに入れて大事だから蓋をするの。</p>
<p>じゃあ米もってるんじゃない？。</p> <p>見て。お米でお餅を作るんだよー。</p> <p>竹とんぼも。</p> <p>お餅をつくってるんだよ。Sちゃんお餅だーい好き。</p> <p>ねえSちゃん、お餅がびょーんびょーんってなっちゃうよ。</p> <p>もっとおもちがびょびょーんって。</p> <p>蛇みたいにね。</p> <p>うん。ウサギさん食べてるびょーんってなっちゃうね。</p>	<p>すごい昔の絵だから大事にしてね。</p> <p>お米？お米もってるのかあ、そうだねえ。</p> <p>お餅を作るんだ。</p> <p>ほんとだ竹とんぼ。</p> <p>お餅大好き？私も大好き。</p> <p>うん。</p> <p>びょーんって伸びる。</p> <p>蛇みたいに伸びる？</p> <p>ウサギさんお餅食べるんだ</p>

<p>ねえなんでー？</p> <p>ちっちゃい鳥。</p> <p>あ、食べられちゃう。</p> <p>みてみて食べられちゃーーーう。</p> <p>おなかが痛くなっちゃうよー。</p> <p>ねえこれ何描いてるのー？</p> <p>たいへん！</p> <p>食べようとしてる。</p> <p>ほら見て。</p> <p>すごーい。</p> <p>これ大好き。</p> <p>Sちゃんはもっと強いのが好き。</p>	<p>じゃあさ、これ一緒に回してさ、何描いてるか 見てみる？</p> <p>なんでーって？</p> <p>あ、鳥さんいる。</p> <p>食べられちゃう？</p> <p>おっきい鳥にどうなるかなこのあと。</p> <p>おなかが痛くなっちゃうね、食べたら。</p> <p>それねえ……</p> <p>たいへん？</p> <p>食べようとしてる？</p> <p>あれ、また新しいの出てきたよ。</p> <p>すごい。</p> <p>大好き？鳥？</p>
---	---

表 5. 実践時に見られた保育内容人間関係に係る事例

Table 5. Examples related to contents of child care “human relationships”

子どもの発話	筆者・保育者の発話
<p>幼児1：こっちは何？</p> <p>幼児2：なんでここにいるのー？</p> <p>幼児1：くるくるってやるんだよ</p>	<p>見てみる？ちょっとじゃあそーと一緒にひっ ぱろうか。こっちもって。</p> <p>今日はね、このながーい絵を持ってきたの。な がーいよ。見てみる？</p>
<p>(2人の男児が絵巻の周りを車を走らせながら 回る) 目が回る もうやめよ みてて</p>	<p>きょうながーい絵もってきたの</p> <p>はやいはやい二人とも</p>
<p>(車のおもちゃを走らせながら一周)</p>	<p>保育者：Sちゃんもこっちぐるっと回ってきて。 筆者：うん、あし。 保育者：ねえSちゃんなんかこれやってるよー。</p> <p>保育者：Sちゃんいきすぎー。 筆者：あ、またぐるっと戻ってきちゃった。</p>

幼児を対象とした絵巻の体験における有効性と問題点の検討

<p>またくると回ってくる。          みてみて。          みてみてて。          とってもはやいよ。          何がはやい？          (絵巻の置いてあるテーブルで車を走らせる)</p>	<p>いいものもってるね。          あーこけるよ。          何？          おーはやい。          あ、ここは道路じゃないよ</p>
<p>うん。</p>	<p>何やってるんだろうねえ。あ、車はここ置いちゃダメだよ。</p>
	<p>ここはね、大事だから走らないでね。</p>
<p>幼児1：すごい。          幼児2：えーすごい。          幼児1：ひゅー————ん。(ブロックを飛行機に見立てて走っている)          幼児1：ねえみててこれがひゅー————ん。          幼児1：みてみてて。          幼児1：ひゅー————ん。          幼児1：みてみてて飛行機はやいよ。          幼児1：はやいでしょこっち。          幼児2：くるま？          幼児1：みてくるまがとんでー          幼児2：あっちのほうがはやいよー。          幼児1：みてとんでー。</p>	<p>あ、おちちゃうおちちゃう。これほんとはもっと長いんだ。          うん。ここまである。          うん、長いからね。          みるみる。          あ、机の上は走らないよ。          もどってきた。          あーこの上でやらないよー</p>

